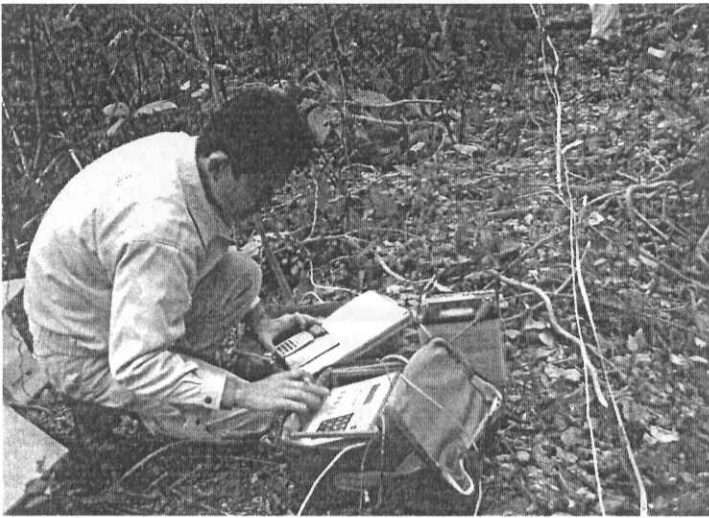


沖縄県(糸満市)で150ヶ所の埋没防空壕



空壕は発掘する予定です

平成16年2月、沖縄県糸満市米須の防空壕を電気探査による方法で発見したことは平和の灯5号にて報じましたが、その後、このように戦後未開封の防空壕が糸満市だけで150箇所もあることが判明しました。

おそらく、沖縄全土では数千箇所、世界各地には数万箇所の戦後からの未開封防空壕があることでしょう。パラオ共和国でも同様でした。

しかし、厚生労働省はその存在さえ把握しておらず、当会は早速厚生労働省を現地に案内し、すべての防空壕の発掘を要請いたしました。

戦後60年が経過しようとしていますが、戦後処理は日本国内の沖縄だけでいいのか、海外には全戦没者の7割以上(116万人)の遺骨が掃選できない悲惨な状況があるのも説明がつかず。

「日本の繁栄は戦没者の尊厳犠牲があつたから」とか「若者に愛国心を」教育を」と政治家たちは綺麗事を言わねばならず、そのようなことを言う前に、国と肉親を愛し、犠牲になつた多くの若者を遺族の元へ還すべきだ。

平和の灯

題字 津留崎尚
戦没者を慰霊し 平和を守る会発行
〒849-0112 佐賀県三養基郡北茂安町 大字江口7561
塩川総合企画(株)内
発行責任者 塩川正隆
電話 0942-89-5135
FAX 89-9281
e-mail:senbo-peace@senbotsusya.com
http://www.senbotsusya.com

糸満市域の壕ガマ位置図

糸満市教育委員会作成

番号	字名	名称	種類	現況	備考
1	武 豊	湯原の壕	住民防空壕	不明	83
2	武 豊	アンガマ	住民防空壕	不明	84
3	武 豊	土門路傍壕	軍用防空壕	不明	85
4	武 豊	後山の軍用壕	軍用防空壕	不明	86
5	武 豊	ウーシムナ、ウーシムナ	住民防空壕	不明	87
6	武 豊	後山の壕、裏山の壕	住民防空壕	不明	88
7	武 豊	ミヅカミ、ミヅカミ	住民防空壕	不明	89
8	武 豊	ウラガ、イリスカ	住民防空壕	不明	90
9	北 沢	後山毛のガマ	住民防空壕	不明	91
10	北 沢	カーヌム	住民防空壕	不明	92
11	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	93
12	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	94
13	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	95
14	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	96
15	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	97
16	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	98
17	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	99
18	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	100
19	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	101
20	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	102
21	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	103
22	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	104
23	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	105
24	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	106
25	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	107
26	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	108
27	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	109
28	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	110
29	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	111
30	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	112
31	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	113
32	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	114
33	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	115
34	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	116
35	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	117
36	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	118
37	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	119
38	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	120
39	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	121
40	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	122
41	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	123
42	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	124
43	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	125
44	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	126
45	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	127
46	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	128
47	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	129
48	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	130
49	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	131
50	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	132
51	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	133
52	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	134
53	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	135
54	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	136
55	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	137
56	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	138
57	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	139
58	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	140
59	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	141
60	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	142
61	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	143
62	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	144
63	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	145
64	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	146
65	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	147
66	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	148
67	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	149
68	北 沢	マフチ	住民防空壕	不明	150

フィリピン・ルソン島・クラーク基地周辺の状況

建武集団の遺骨・遺品 鬼頭 重樹

2002年6月アンヘレス市からクラーク基地を經由して車で約1時間ほど舗装されていない険しい山岳道(米軍が急造した戦車道)を登るとアエタ族(ネグリート)の山岳先住(民)の部落が山

の尾根道に沿って点在していた。車を止め、アエタ族の先導で急斜面を汗を流らせながら40分ほど登ると山頂直下約50メートルの所に旧日本軍が作った洞窟陣地があった。この洞窟は太平洋戦争中クラーク基地を防衛する任務に当たった建武集団が第14戦区または「屋島」と呼んだ場所。昭和20年2月中頃には第13戦区及び第14戦区の高松市を合わせて日本軍約6,000名が全滅したと記録されている。

1991年6月のピナツポ火山大噴火による大量降灰と過去59年間の雨水による土砂流入で埋まっていた洞窟入り口は僅か高さ80センチ程度開口しているのみであった。アエタ族の人間に続き我々も腹ばいになり照明

器具を持って洞窟の中に入り調べてみた結果、入り口から10メートルくらい進んだ所で右に折れ曲がり、その後更に、右と左に随道が分かれていたが、両方とも途中で流入土砂や落石で行き止まりになった。随道は高さ120センチくらいになり、かがめば歩ける。洞窟の中は異常に蒸し暑く、地面の土は水分を多く含む泥濘状態であった。岩肌

の所々には石油ランプを置いていたのではと思われる窪みが作られていた。洞窟の中には遺骨や遺品らしきものは何も無い。過去何十年もアエタ族や現地人宝物の連中が洞窟荒らしをしてあげていた物を持ち去ってしまったと推測した。タララック

に在住の元宝物の連中がこの洞窟に16体分の日本人の遺骨があったと証言している。洞窟の外に出て汗を拭き、涼風に体をあてていると仲間からフィリピン人が私の足を指差して「これは骨だ」と叫んだ。私の右足を上げてみるに枯れ木に似た物が

と確かに「骨」だった。恐らく人間の大腿骨。30分くらいで大腿骨らしきものが5本、人間の歯が8本、どこの部位の骨か判らない人骨が数十片、弾丸2種類、茶色菜パン1個、等々が洞窟の前の斜面に捨てられていた土砂の中から出てきた。「宝物の連中」が洞窟から排出した土砂と考えられる。それら遺骨・遺品を回収した後、在フィリピン

日本大使館を通じて厚生労働省の遺骨収集係りの役人の方と電子メールで連絡をしたが、お役人が使う奇妙な「役人語」の返事は数通頂いたが、誠意と熱意が感じられる返事は全くなかった。その後、継続的に電子メールで厚生労働省へ連絡を取った。発掘した遺骨・遺品(認識票を含む)に関して写真を送ると要

求されたので自腹でデジタルムービーカメラを購入して遺骨・遺品の写真が揃ったが、今度は番号と名前、認識標等が揃っていないと、個人の特定は出来ないというご返事であった。いった

一航空艦隊司令官に将兵の数はピーク時で五万人余と言われている。海軍中将大西瀧次郎

これら飛行場群に配属された飛行パイロット及び整備員、飛行場施設部隊・設備隊等の陸海軍の将兵の数はピーク時で五万人余と言われている。海軍中将大西瀧次郎

カット東飛行場からレイテ島の米軍艦船に向かった。終戦時にクラーク周辺の復旧陣地及びピナツポ火山周辺の山々で生存していた日本兵は僅か1,230名と言われていた。組織的な「神風特攻」及び航空作戦が終了すると、残存航空パイロットは台湾を経由して日本へ送り出されたが、海軍の航空機整備員及び飛行場設置隊は残置部隊として建武集団の指揮下に入り、クラーク平原及び周辺の山岳地帯の復旧陣地に配属された。海軍の残置部隊とは別に陸軍将兵約14,600名余もクラーク平原及び周辺の山岳地帯の復旧陣地に配属された。合計30,000名余(※注1)の日本軍(注1:昭和21年9月15日付16戦区からの報告では海軍20,000弱、陸軍20,000弱とあり、兵力計算とされている。なお、この集団地区での戦没者は、厚生省では42,130名と計算している)しかし、この数字には台湾や朝鮮半島出身の軍属や一般民間人が入っていないと推測される。

(フィリピン)
鬼頭 重樹 TEL 63-45-892-7786
FAX 83-45-892-7786
address: 20-5 Camia Street Diamond Subdivision
Balibago, Angeles City Pampanga, Philippines 2009
E-mail: Shigeki.kito@mail.goo.ne.jp
kito_shigeki@hotmail.com

今年で戦後59年目の夏が来た。この時期のマスコミは大半が戦争問題を取り上げ、戦争の悲惨さを伝える。しかし今年9・11以降のテロから始まったイラク戦争、拉致から注目されるようになった北朝鮮問題、一部マスコミはこれらを取り上げ、政府の有事関連法案、イラク特措法、必要性を叫び、政府一体となって自衛隊の行動範囲の拡張、軍隊への昇格を説いているように思われるのは気のせいだろうか。それとは対照的に映画では近年戦争を取り上げ、その悲惨さを訴えた作品が多くなっていく傾向にある。映像技術が進歩した事、見手が士官から一兵卒に移った事、大きな変化だと思える。『ライオン』、『ブラックホークダウン』、『ブラザーフッド』、これらの映画を見る目、手、足が吹飛んで死んでいくシーン、これが、実際の世界の生きていく事を考えると恐ろしく思う。しかし今の政府を見ると、教育基本法の改正によって「愛国教育」の実施、憲法9条改正の論議、それはアメリカ大統領選、日本の参院選、日米関係、この2カ国の共通点はイラク戦争。北朝鮮問題に対してリベラルではいられない点にある。リベラルでは党が軟弱にみられる選挙に勝てない為だとして、実際の日本においても、民主党は派兵反対でも改憲を行ない自衛隊の行動範囲を拡大し、同じ目で見ている。だが与党と同じ目で見ないのが分かる。2004年、大政の間に少数政党が護憲も唱えているが、このマイノリティの意見は無視されている状態に近い。小数の意見が届かない風潮、この戦争という悲惨な時代を繰り返そうとする予兆、折岡健太郎